



鞠の浦学園だより



No.13
2021年(令和3年)10月18日

「伝える」と「伝わる」ことは違います!

～本気になれる時はどのような時なのかな～

日中の気温も下がり、秋を感じる季節になってきました。

先週は、フリー参観の週でした。子ども達の学ぶ姿をご覧いただき、本当にありがとうございます。運動会の練習も始まり、練習を重ねるごとに上手になっていると感じます。

ところで、9年生の教室には次の文章が書かれています。担任に理由を聞くと、生徒が「勉強する気にならない。」と言うので、少しでも意欲が持てるよう何とかしたいと思って、探して書いたとのことでした。

- ・「明日は何とかなると思う馬鹿者、今日でさえ遅すぎるのだ。賢者はもう昨日済ませている。」(学者チャールズ・クーリー)
- ・「考え込んでいる時間があったら何かやればいいんだよ。何もしていないなんてもったいないよ。」(所ジョージ)
- ・「やる気があるときなら誰でもできる。本当の成功者はやる気のないときでもやる。」(心理学者フィルマグロー)
- ・「入試のプレッシャーに負けない自信、明確な根拠ある自信。それを得るためにはひたすら勉強するしかない。」(桜木健二 ドラゴン桜主人公)
- ・「自分のしたことは必ず自分にかえってくる。良いことも悪いことも。」(三好雅樹)



子ども達を思う担任の気持ちが伝わってきました。「勉強しなさい!」とか、「あとで困るよ・・・」とか言うと上手くいくこともあります、そうでないことの方が多いのかもしれない。

先週、「聞いて。」とある子が私を見つけ話しかけてきました。「国語が嫌い。特に作文・・・」「そうかあ、気持ち、わかるな。けど、自分の考えを書いて伝えることは大事なんだよ。頑張ってほしいな。」「わかった。」といて教室に戻っていきました。伝わったのかな?

思いや考えを伝えることは本当に難しい。「伝える」と「伝わる」ことは違います。うまく伝われば本気になれる時もある。でも、伝わらない伝え方をすると何も変わりません。本気になれる時はどのような時なのでしょう。運動会のような楽しい時だけでなく、厳しくしんどい時でも粘り強く、たくましく取り組む力をつけてほしいものです。

自分で決めて取り組んだから輝ける!

16日(土)に行われた「福山地区中学生英語暗唱大会・スピーチコンテスト」に、2名の生徒が出場しました。大会終了後の2人の言葉からは、自ら出場することを決め、真剣に取り組んできたからこそ感じた熱い思いが伺えました。

たくさん刺激をもらったので、やってよかった。挑戦したことが、次への自信につながった。

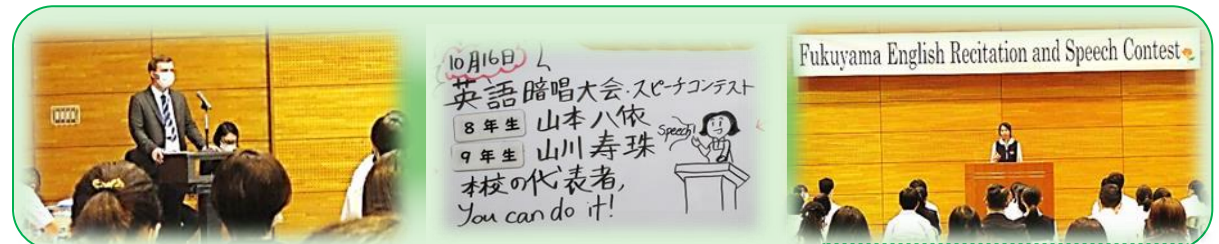
思うように表現できたときは、やっぱり嬉しい。悔しいのは、7年生からやらなかったこと・・・



山本 八依さん(8年生)
「Unit 3 Plans for the Summer」



山川 寿珠さん(9年生)
「Unit 7 Tina's Speech」



全体司会を務める本校のアダム

校内のホワイトボードで紹介・応援

張り詰めた空気で緊張感漂う会場

小さな「できた!」の積み重ねが大きな成長へ!!

1年生は、4月から「できた!」をみんなで増やして「幸せの道」を実現しようと取組を続けています。日々の小さな「できた!」が、大きな成長の木へと育っています。



階段でこけた友達に「だいじょうぶ?」と声をかけてあげたよ。

けんかした友達と自分達で仲直りして、すっきりしたよ。

1年生教室の成長の木「できたっ!!」